

第27回 全労連定期大会開催！！「日本母親大会 in 神奈川」に参加して



「希望に輝く未来のために、いまともにたたかおう」のスローガンを掲げ、全労連が結成され25周年をむかえた記念すべき大会に初めて参加しました。7月27日～29日の3日間には、270

余名の代議員、本部役員、オブザーバー、マスコミ関係者、来賓を含め350人程の参加者でした。全労連加盟組織は、21の単産と各都道府県の47地域組織で構成され、九州沖縄から北海道まで全国から集まり会場は、熱気に包まれていた。76名の熱い討論は、笑いあり、怒りありの報告でした。京都の高校教員である代議員は、高校で学ぶ子どもの実態を報告されました。アルバイトで7万円の収入があるが、そのうち3万円を家に入れ、修学旅行の積み立て、給食費に1万円、携帯電話料に1万円など、自宅の生活費をアルバイトで支えているという。若者が夢を持ってない時代になっていると感じました。又、夫婦二人とも非正規労働者の生活で、国民健康保険料が払えない実態もあるとの報告。今や全労働者の4割が、非正規雇用の状態におかれています。そのうちの8割以上の労働者は、年間200万円以下の年収という、「ワーキングプア」状態に置かれています。大企業には法人税を減税する一方で、残業代ゼロ・限定正社員制度の導入、労働者派遣法の改悪等、労働者を守るべき労働法の改悪を進めています。その上、消費税の増税計画を遂行し、医療・福祉の社会保障制度を悪化させるなど、暴走政治を加速させています。これでは、私たち医療・介護の職場の労働環境は、ますます悪くなるばかりです。これにストップをかけるためにも、職場の仲間を増やさなければと思いました。大会スローガン「許すな『戦争する国』づくり、労働者使い捨て社会。つくりあげよう たたかひの岩『150万全労連』」を採択し会場をあとにしました。

【報告：県労連議長】



検索！

<http://oita-irouren.net/>

【西別府支部】

1955年「世界の母親・女性が手をつなぎ、核戦争から子どもを守りましょう」と世界母親大会に集い誓い合った日から、日本の母親は・女性は、戦争放棄の日本国憲法の思いを重ね、民主主義を学び広げて途切れることなく大会を開いてきました。今年8月2日～3日、神奈川県で第60回日本母親大会が開催さ7200人の参加がありました。

1日目の全体会は、オープニングに横浜中華学院南獅部の中国獅子舞のパフォーマンスに始まり、会場を回る獅子に歓声が上がりました。全労連小畑雅子女性委員長が主催者挨拶されました。記念講演は、東京大学大学院の小森陽一教授を講師にお迎えし「子どもたちに憲法が輝く明日を」がありました。2日目の分科会は、テーマ「暮らしの問題・権利の問題のメンタルヘルスを考えるーなぜふえる心の病、健康で働きつづけるためにー」に参加しました。助言者は精神科医師の野末浩之 Dr. でした。午前・午後と椅子が足りずに床に座り込んでの参加がありました。誰のメンタルが気になるかの質問で、一番多かったのは「子どものメンタル」でした。



先日医労連の定期大会で新委員長になった中野千香子さん、すつきりとしたハンサムウーマン。職種は看護師。「誰もが安全で平和に、人間らしく生き暮らすことを願い、そのため戦争否定と社会保障の充実を求めています。」と所信表明をしています。いのちに向き合う医療労働者として私達はこの秋「いのちまもるキャラバン行動」に一丸となつて取り組みます。二年目に入った「安全・安心の医療・介護実現」「夜勤改善・大幅増員」「地域医療と国民生活を守る」署名行動にも引き続き全力を挙げます。運動がみんなに見える、みんなにわかる、みんなに共感してもらえるように、解らないことは聞き、知らない事は学び、解ったことを伝える対話が組合の第一歩です。組合員自らが対話を広げていくことから始めましょう。次回に続く・・・



日本医労連
中野新委員長



労働組合とはなんぞや？ 31